



2025年10月31日

各 位

会 社 名 株式会社 P E G A S U S
代表者名 代表取締役社長 美馬 成望
(コード番号：6262 東証スタンダード)
問合せ先 執行役員 多田 雅一
(TEL. 06-6451-1351)

2026年3月期第2四半期（中間期）連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

2025年5月13日に公表した2026年3月期第2四半期（中間期）連結業績予想と実績値との差異につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）連結業績予想値と実績値との差異（2025年4月1日～2025年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	13,070	1,340	1,290	860	34.66
今回実績(B)	11,409	669	662	414	16.70
増減額(B-A)	△1,660	△670	△627	△445	—
増減率(%)	△12.7	△50.0	△48.6	△51.7	—
(ご参考) 前年同期連結実績 (2025年3月期中間期)	10,467	784	567	237	9.58

2. 差異の理由

2026年3月期第2四半期（中間期）における世界経済は、緩やかな回復基調を示したものの、ロシア・ウクライナ紛争の長期化、中東情勢の緊迫化による地政学的リスクの継続、中国経済の回復鈍化に加えて、米国追加関税措置の影響等、先行き不透明な状況が続きました。

当社企業グループの主力事業であるアパレルマシナリー事業については、米国関税措置が発表された4月以降は、回復基調を示していた中国及び南アジア地域においても、縫製企業の新規投資に対する様子見の動きが見られるようになり、売上が減少しました。

オートモーティブ事業については、中国自動車メーカーの過当競争による部品メーカーへの値下げ要請等により、売上が減少しました。その結果、営業利益、経常利益、親会社株式に帰属する中間純利益はいずれも前回予想を下回りました。

なお、通期の業績予想につきましては、今後の状況に応じて、業績予想の修正が必要と判断した場合には、速やかに公表いたします。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上